

# 基本施策評価シート

基本施策通し番号 33

基本施策最終評価

C

基本施策 良好なふるさと景観の形成

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	まちなか景観の保全と形成	C
施策2	屋外広告物の改善とデザインコントロール	C
施策3	田園・山村景観の保全と形成	B

## 成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成29年度末 実績	単位	平成29年度の成果の検証
芝桜などの植栽面積	芝桜などの累計植栽面積	500,000	421,182	m <sup>2</sup>	昨年までと比べ縮小している。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	日本百名山や森林浴の森100選、名水百選や都市景観100選に選定されるなど、全国に誇ることができる美しい自然や城下町などに代表される貴重な歴史的遺産を有し、ふるさとの魅力ある景観を醸し出してきた。しかし、400年以上の歴史を持つ城下町では、空き地や空き家が増加し、町家が連続する昔ながらの景観が壊れつつあり、里地里山、里川などを含む田園・山麓地帯では、耕作が放棄された農地や、手入れされずに荒れた森林が増えており、良好な景観を保てなくなりつつある。
課題	大野市景観計画に基づいた、歴史的遺産の保存や条例による規制、市民力・地域力による景観形成事業の促進など積極的な景観形成を図り、大野らしい景観を残し、次世代につなげていく必要がある。

## 社会情勢・市民ニーズの変化

大野市は、平成18年1月に景観行政団体になり、「大野市景観形成計画」を策定し積極的に良好な景観形成を進めてきた。地区によって温度差はあるが、住民の意識や市外からの評価も高まってきているため、継続が望まれている。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	城下町では、空き地や空き家が増加し、町家が連続する昔ながらの景観が壊れつつあり、里地里山、里川などを含む田園・山麓地帯では、耕作が放棄された農地や、手入れされずに荒れた森林が増えており、良好な景観を保てなくなりつつある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観形成は長期的な展望により事業を遂行していく必要があるため、継続的に市民の景観に対する意識を向上させ、現行制度を着実に実施していく必要がある。</li> <li>屋外広告物の規制強化と改善支援を検討する。</li> <li>華のゾーン形成事業については、道路事業(社会資本整備総合交付金)での予算確保が厳しくなっている。</li> </ul>

## 基本施策の「成果」

成果	都市景観推進事業や、中山間地域等直接支払事業、多面的機能支払交付金事業、ふるさと水と土とふれあい事業、華のゾーン形成事業等の現行制度を着実に実施していくことで、市外からの良好な景観に対する評価を得ている。
----	--

## 改善点

財源の厳しい中、現行の景観修景補助制度については、平成30年度末に終期を向えることから、公共空間からの景観や面的な広がりを重視しつつ、補助率の縮減等により費用対効果の高い新たな制度に改善する。